

FOR MEMBERS OF THE SCOTCH MALT WHISKY SOCIETY

# UNFILTERED

チャールストン見物 + スコッチウイスキーの樽選び  
挑戦するモーシヨン氏 + 愚者の金

NO. 1 秋 2017



All for one

LET'S RAISE A GLASS TO THE SINGLE CASK



THE SCOTCH MALT  
WHISKY SOCIETY

ESTD THE VAULTS, LEITH, SCOTLAND

# チャールストン 見物

ハンス・オフリンガ氏はアメリカ最古の都市の一つ、チャールストンで3つの蒸留所をめくりながら、南部の人たちの本物の暖かいもてなしを体験します。

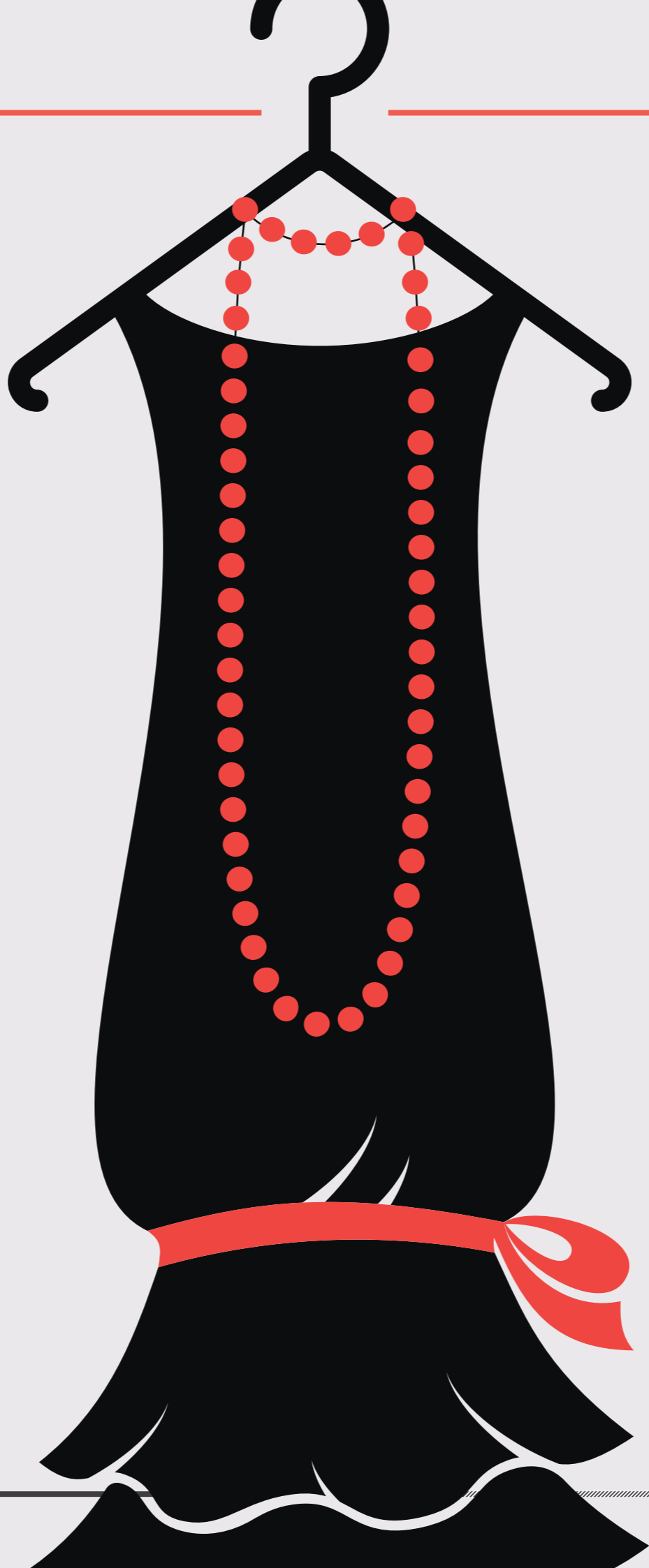
毎年私たちはアメリカのサウスカロライナ州チャールストンという美しい都市で一定期間過ごします。同市は北米最古の都市の一つで、アメリカ合衆国の建国前から存在しています。チャールストンはイギリスの国王チャールズ2世によってカロライナの貴族に与えられた特権の一部として1670年に設立されました。同市の中心部はアシュリー川とクーパー川の間にある半島に位置しています。2つの川は大西洋に流れ込んでいるのですが、地元の人はその2つの川が大西洋を形成しているのだと主張します。チャールストンは文学と歴史の街として有名です。『ポーギーとベス』の舞台であり、『風と共に去りぬ』の一部の舞台ともなっています。また、港のサムター要塞は南北戦争（一部の南部人がいまだに遠回しに“前の不愉快な事件”とも言います）の火ぶたが切られた場所でもあります。地元の人には白人と黒人が居住していた過去について認識していますが、国際色豊かな友好的な都市を作ることに向かっています。

カロライナ州の多くの人々はアイルランド人やス

コットランド人を祖先に持ち、私の妻のベッキーも同様です。彼女はスコットランドのフレーザー・オブラヴァット氏族の子孫で、それが彼女の旧姓ラヴェットの由来です。スコットランド人とアイルランド人は18世紀と19世紀にアメリカに移民してきました。一部の人は単式蒸留器を持ちこんだのかもしれませんが。多くの人々が蒸留の知識があったのは確かです。現在、チャールストンには3つのクラフト蒸留所があります。それらの蒸留所を皆さんに紹介したいと思います。

キングストリートはその半島で最長かつ重要な通りの一つです。2つのクラフト蒸留所があり、流行のレストランやお店の間に位置しています。まず1つ目は、ハイワイヤー蒸留所でキングストリートの652番地にあります。スコット・ブラックウェル氏とアン・マーシャル氏によって2013年に設立されました。スコットは次々と会社を立ち上げる起業家で、ハイワイヤーは彼が一から立ち上げた5番目の会社となります。もともと彼は自家醸造家であり、パン職人であり、コーヒー製造者であり、サウスカロライナ州の州都コロンビアでコーヒーショップのオーナーという肩書を持っています。彼はコーヒー事業を自分のカフェであった「Immaculate Consumption」のマネージャーに売却し、チャールストンで蒸留所を始めました。

キングストリートを1.6キロほど下ると、スティーブ・ハイルマン氏が設立したチャールストン蒸留所があります。同氏は以前「シカゴ・マーカントイル取引所」で商品取引をしていました。「その仕事への



1日で3つの蒸留所を回ることができですが、もう少し滞在を延ばした方がいいかもしれません。

意欲が失せ、何か別のことをしたくなっただけ」と同氏は語っています。そしてチャールストンへ移り住み、地元の弁護士で趣味として8年ほど蒸留酒を造っていたブレント・ステファンス氏と共同で蒸留所を始めました。

そして3つ目はストリップド・ピッグ蒸留所です。半島の“首”部分のチャールストン北部の端に位置しています。3つの中では最古の蒸留所で、私たちは初期段階から開発に携わってきました。2011年12月、設立者のトッド・ワイス氏が蒸留所を建てようか検討していた際に、私に連絡をくれたのです。

ストリップド・ピッグ蒸留所には実際に本物のペットがいました。環境に優しい塗料で白のストラップが背中に描かれた黒豚です。ジャクソンという名前がついていました。共同設立者のジム・クレイグ氏と私が、地元の酒屋でジャクソンと一緒にウイスキーのテイastingをしていると、他のお客さんたちが非常に喜んでくれました。「残念だけど、ジャクソンは大きくなりすぎて、手に負えなくなったんです」と最近ジムが教えてくれました。「ジャクソンは今広大な牧草地に住んでいて、毎週会いに行っています。まだ私を覚えているんですよ」と話してくれました。

1日で3つの蒸留所を回ることができですが、もう少し滞在を延ばした方がいいかもしれません。チャールストンには蒸留所以外にもさまざまな名物があります。最もよく知られているのは南部の人たちの暖かいもてなしですが、その他にも芸術フェスティバル「スポレート・フェスティバル・USA」や、

「チャールストン・ワイン+フード・フェスティバル」、ジャズフェスティバル、壮大な歴史的建造物、すばらしいレストラン、歴史ある農園、ビーチ、ゴルフ場、ミュージアム、ホテルやバーなど楽しめる場所がたくさんあります。チャールストンは、「コンデナスト・トラベラー」誌で5年連続アメリカの小都市第1位に選ばれています。さらに、「トラベル+レジャー」誌では2016年に世界一の都市として選ばれました。私たちはこの街のすばらしさを秘密にしておきたかったのですが、仕方ありません。

もちろん、ザ・スコッチ・モルト・ウイスキー・ソサエティ (SMWS) のすばらしいお酒を特別な友人と楽しみました。チャールズ・ウォーリング3世はビルグリム・ファーザーズの直系の子孫であり、国際的な視点を持つ「チャールストン・マーキュリー」紙のオーナー兼出版者です。私も10年以上ウイスキーの話と同紙に寄稿しています。私たちはカスクNo. 48.63の「アップ・オールナイト・エディトリアル」のボトルを開けました。世界中のすべての出版者、編集者、ドリンク・ジャーナリストなどの皆さん、そして、チャールストンに乾杯。●

● ハンス・オフリンガ氏はオランダのSMWS大使です。同氏と夫人のベッキー・ラヴェット・オフリンガさんは「ザ・ウイスキー・カップル」としてウイスキー関連の書籍、記事、写真やプレゼンテーションで知られています。



## スコッチウイスキーの樽選び

スコットランドのウイスキー製造は、その誕生の間もない頃から、絶えず樽と密接に関わってきました。木製の樽の中に新しい蒸留酒を入れると、時間の経過とともに豊かに、そして柔らかに変化し、奇跡的とも言える美味の頂点に到達することが分かりました。

こうした“発見”というものは、偶然が積み重なって生まれたものだとロマンチックに想像されがちです。何らかの理由で輸送用の樽が放っておかれ、その結果、中のスピリッツが偶然改善したのだというように。しかし実際には、少なくとも紀元前500年には、ヨーロッパのワインメーカーが樽熟成の有用性に気づいており、樽の使用は必然だったと言えます。その知識はやがて、もっと北で穀物を原料に蒸留酒を造っていた人々に広がっていったと思われまます。

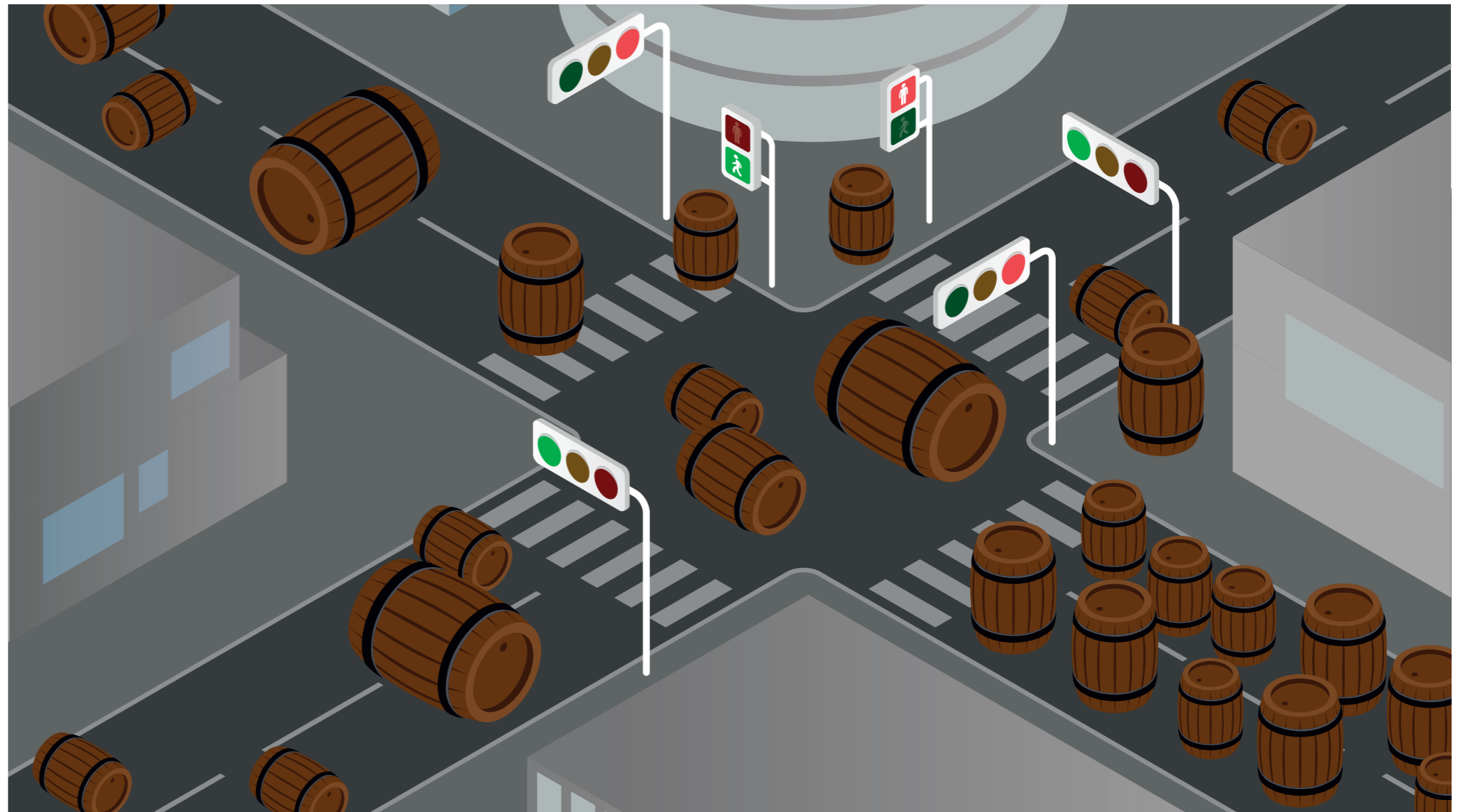
“ウイスキーは樽が作る”とも言えます。元々樽に入っていた内容物が、最終的にボトルに詰められるスピリッツの品質に重要な役割を果たすのです。では、蒸留所が合法的に使用できる樽とは一体どのような樽なのでしょうか？アンガス・マクレイルドは、法的に使用を許可されている樽の種類に注目しました。

ウイスキーは木製の樽に大きく左右されます。しかし、ここ数十年で、利用できる木材と、その理由を取り巻く法律が厳しくなりました。1988年、スコッチウイスキー法に基本原則が定められ、スコッチウイスキーは木製の樽で熟成し、その容量は700リットルを超えてはならないと定められました。さらには1990年のスコッチウイスキー令で「木製の樽はオークであること」と、より詳しく定義されました。これは、スコッチウイスキー業界との協議と、スコッチウイスキーアソシエーション(SWA)が、何をもって“伝統的な樽”と定義すべきかを、歴史ある業界の慣習から検討した結果でした。

さらには、熟成や仕上げ(フィニッシュ)の際の利用に、許容範囲とみなされる樽のサブカテゴリーについても指定されました。それは蒸留酒やワインを貯蔵していた様々な樽を使用して、ウイスキーを仕上げる方法が普及し始めたためで、2000年代初頭にSWAによって定められました。2000年代初頭の調査と協議によって、既存の英国法の下、認められた樽のタイプに関して指針が生まれたのです。それが以下となります。

「バーボンとその他のウイスキー、グレープブランデー(アルマニャックとコニャックを含むが、それらは法律上はワイン蒸留酒である)、ラム、酒精強化ワイン(シェリー、マデイラ、ポート、マラガを含む)、スティルワイン(すべての種類とすべての地域)、そしてビール/エール。メンバーがスコッチウイスキーの熟成や「仕上げ」にそれら以外の樽の使用を望む場合、当事者の責任において、その樽が伝統的に業界で使用されていたことを証明し、その旨の証拠を提供することとする。長年にわたり業界でその種の樽を利用した証拠がない限り、裁判所は特定の種類の樽を伝統的なものとして認めない。一例を挙げると、スコッチウイスキーアソシエーションの審議会は、スコッチウイスキーの熟成や「仕上げ」への利用を正当化するために、過去にカルバドスの樽を利用した十分な証拠を見つけれなかったと判断した」

この指針が適用されたのは、最近でいえば、SMWSのボトル-35.178-が、以前ジン貯蔵していたホグスヘッド樽でウッドフィニッシュされ発売された時です。この時、SWAはジンの樽が利用されていた歴史的経緯(あるいは、ジンの熟成そのもの)に異論を唱え、ジンの樽の使用を許可するのは賢明ではないと提言しました。逆にウイスキー熟成に栗の樽を使っていた前例はあるため、どこかの蒸留所がその使用を認めてもらおうと異議申し立てをする可能性も考えられるでしょう。ですが、オー



クの樽ではない以上、その訴えが届く可能性は高くないでしょう。

SWAとウイスキーメーカーとの間で緊張が走り、協議が必要となった最近の事例と言えば、おそらく、コンパスボックス社の「スパイスツリー」の一件でしょう。スパイスツリーはトーストしたフレンチオークの“インナー”ステープが入った樽で熟成されたブレンデッド・モルトウイスキーでした。コンパスボックス社のジョン・グレイザーは、ウイスキーの仕上げにハーバルでスパイシーなエッセンスを加えるため、この“インナー”ステープ入りの樽を使用しました。しかしSWAは、歴史上前例がないという理由からこの方法に反対しました。SWAとの協議の末、グレイザーは、樽のヘッド(鏡)にトーストしたフレンチオークを使った特製のアメリカンオークの樽を使用するという解決方法にたどり着きました。この対策は、考え方の相違に対し、いかに創造的な解決策を生み出せるかという手本となりました。SWAは対立を求めているわけでも、法廷対決になだれ込むことを望んでいるわけでもありません。

SWAは、スコッチウイスキーの「伝統」と特性を守る任務を負っているのと同時に、誰もが喜ぶ製品をメーカーに発売してほしいと考えているのです。

オークは、スコッチウイスキーを熟成させてきた木材の中でも、圧倒的な主流です。様々な種類のオークがありますが、それらはすべてよく似た、必須の特性を幅広く備えています。オークの樽は、簡単には水分を漏らしません。均一に蒸発させます。スピリッツに不快な風味を与えません。大規模に製造展開できる程度に普及しています。実際、グレンモーレンジのビル・ラムズデンは、ブラジリアンチェリーウッドなど他のタイプの本木で実験をし、到底用途に耐えないことに気づきました。蒸留所が他の本木で実験してもSWAが気にもかけていないという事実は、オークへの揺るぎない自信を雄弁に表しています。

ただし、もし蒸留所が彼らにぴったりの新しい木材を発見し(現に、新しいドーノッホ蒸留所はスピ

スコッチウイスキーのメーカーは業界での歴史的な前例があることを証明できれば、別の木材でも試せるというグレーゾーンが、多少なりとも存在するのです。

リッツとジンをジュニパー製の樽で熟成させる計画があるためその可能性は十分あります)、それをボトルにしたいと考えた時、「スピリッツ飲料」として発売するのであれば、SWAは喜んで協力するでしょう。ただし、ラベルやイメージ、文言がスコッチウイスキーの権利を侵害するものではないという場合に限りですが。

つまり、スコッチウイスキーの製造者は業界での歴史的な前例があることを証明できれば、別の木材でも試せるというグレーゾーンが、多少なりとも存在するのです。この指針は、すでに確立されているスコッチの特性と色を保護するために制定されました(人々の信念とは裏腹に、議論の余地のあるウイ

スキーの風味はすべてSWAによって審査されます)。

現代の小規模のボトラーや蒸留業者は、この指針を創造性を妨げるものとみなしていますが、大企業はスコッチウイスキーの保護策と見ています。しかしおそらく、木に関する議論はある種の余興なのでしょう。結局のところ、消費者にとってみれば、既存の法的枠組みと定義の範囲内で、最高のウイスキーを提供する方法が製造者にはあるはずだと思っているのです。

そこから逸脱しようとするより、既存の定義の中で最も際立った魅力的なウイスキーの製造に力を注いではどうでしょうか。本物のクオリティを実現して初めて、実験は成功したと言えるのですから。●

ゴードン・モーション氏は将来、コンピューターサイエンスの道に進むつもりでいましたが、いくつかの蒸留所で体験就労をしたことがウイスキー造りやビール醸造という彼の眠っていた願望を再燃させてしまいました。25年後の今、彼はハイランドパーク蒸留所で「マスターウイスキーメーカー」としての人生を楽しんでいます。デンマークの田舎に住むデザイナーのJim Lyngvild氏のヴァイキング風の自宅で、ハイランドパークの新製品「Valkyrie」の発表会が行われ、そこでゴードン氏にインタビューすることができました。

文：ゴードン・モーション

## 挑戦する モーション氏

どうしてウイスキー業界で働くことになったのですか？

コンピューターサイエンスのコースを卒業する前にいくつかの蒸留所を回ったことが、私の人生を決定づけました。私は一日中コンピューターの前に座ることは嫌だと悟ったのです。もともと私はホームブリューワ（趣味で自家製ビールを造る人）だったので、エディンバラのヘリオットワット大学の「the International Centre for Brewing and Distilling」で製麦・醸造・蒸留のコースを選択し、ポストグラデュエート・ディプロマを取得しました。それはすばらしい経験でした。世界中から生徒が集まっていて、とても国際的なコースでした。コンピューターサイエンスの世界から一変したのです。

私はイギリス国内のいくつかの醸造所で働いたのち、モントローズにある「グレネスク製麦所」でアシスタント・モルトスターとなり、主にウイスキー用の麦芽をつくっていました。その1年半後、ロバートソン&バクスター社（現在はエドリントン社）がマスターブレンダーのアシスタントを募集しており、私はその仕事に応募しました。幸運にも採用され、それ以降ずっと同社に勤めています。

コンピューターサイエンスは役に立ちましたか？

今でも役に立っていますよ！ウイスキー製造と在庫管理の両方を分かっていますので、使用している多くのシステムに対して助言や開発の手助けをしています。



現在の役職について教えてください。

前任のマスターブレンダー、ジョン・ラムゼイ氏が引退するつもりだと9年前に会社に通知した時に、引き継ぎを開始しました。実は私は本命の後任者ではありませんでした。彼らは外部の人間を探しましたが、幸運にも私がこのポストを得ることができました。ジョンが退職するまで2年間の引継ぎ期間があり、私は前向きに取り組み、さまざまなことを決定するようになりました。彼が退職した時、私は

マスターブレンダーとなり、全ブランドの責任者となりました。ザ・マッカラン、ハイランドパーク、カティサーク、フェイスグラス、さらに我々が製造する第三者の製品のすべてです。数年前、カースティン・キャンベル氏がブレンドの責任者となり、私がシングルモルトのハイランドパーク、ザ・グレンロセス、グレンタレットの責任者となりました。私のタイトルは「マスターウイスキーメーカー」に変わり、ハイランドパークに集中する時間が増えました。



新しい銘柄、Valkyrieについて教えてください。

何か違うものを原酒リストに加えようと、我々は何年も前にある決定を下しました。それは100%自家製のピート麦芽のみで造られたモルトウイスキーを造ることでした。オークニー諸島のハイランドパークで製造した麦芽はヘビリーピーテッド麦芽ですが、我々は20%の自家製麦芽と、モルトスターから買入れたノンピーテッド麦芽80%を混ぜて仕込みに用いています。それが我々のスタンダードなスタイルなのです。現在、我々は製品に使える十分な熟成を経た自家製麦芽の原酒を一部保管しており、それをValkyrieで使用することができました。

ということは、よりピーティな製品ということですか？

そうです。ピーティさを高めています、アイラ島のピートのような感じではありません。100%でさえ、ハイランドパークの麦芽はかなり甘味があり、フローラルな香りがあります。オークニー諸島のピートは全く他とは異なっているのです。

Valkyrieとヴァイキングのつながりを伝えるために、ウイスキー造りにそれをどう生かしていますか？どのような挑戦がありますか？

まさしくその言葉、挑戦です！ヴァイキングはつねに挑戦を続けていました。だからこそ我々もチャレンジなのです。何か違うことをして、勇敢になる

皆さんにハイランドパークのさらに強いスモーキーなスタイルを紹介するのが重要なのです。そして我々はいつか100%自家製麦芽を使った製品を発売します。十分に貯蔵できることを願っています。

こと。ヘビリーピーテッドの麦芽は我々のスタイルとは異なっていたため、それは思い切った決断でした。しかし、皆さんにハイランドパークのさらに強いスモーキーなスタイルを紹介するのが重要なのです。そして我々はいつか100%自家製麦芽を使った製品を発売します。十分に貯蔵できることを願っています。発売する時期が来たらそれらを使うことができますから！

Valkyrieはノン・エイジ・ステートメント（NAS）の製品ですが、最近ではエイジ・ステートメントについて、消費者はあまり気にしなくなっていると思いますか？

エイジ・ステートメントは消費者が製品を理解するためのシンプルなものですが、しかしすべてを語っているわけではありません。18歳で大人な人もいれば子供っぽい人もいます。年数が記載されているからといって、それだけではわからないのです。もし私が11年364日熟成のウイスキーを持っていて、12年ものになった時、それが突然変化するわけではありません。でも12年ものとしてそれを利用することができます。NASの製品だと、熟成具合をチェックする機会が得られ、まだ12年になっていないが、これはまさしく私が求めているクオリティーだという風に判断することができます。消費者はさらに知識を得てきています。何年物が記載していても、年数がないという意味ではないということも理解しています。

デンマークの中心にあるヴァイキングの家に来るとは想像していましたか？

採用された時はここに来るなんて思ってもみなかったですよ！今朝はテントにいて、午後はヴァイキングの城、そして夜は宴会場です。この仕事は私を不思議な場所に連れて行ってくれますが、それこそが私が望んでいた仕事なのです。●



# 愚者の金

ウイスキーで手っ取り早く金持ちになるという  
企みには心をそそられます。  
しかし、運のない投資家にとってはお金を  
ドブに捨てるようなものです。

「Rare Whisky 101」の設立者であり、エディンバラのホリールドパーク蒸留所の創設メンバーの一人でもあるデイビッド・ロバートソンから、スコッチウイスキーのボトルや樽への投資で儲けようと考えている人たちに、シンプルかつ飾らないアドバイスがあります。「眉唾かと思うような良い話は、しょせん眉唾です」。

しかし、セールスマンの調子のいい口上と、グラフやチャート満載の光沢あるパンフレット、そしてもちろんすぐに儲けを得られるという誘惑の中で、何度このような警告は無視されてきたことでしょうか。無秩序な代替投資の世界では、それこそまさに<買主をして警戒せしめよ>です。買い手に注意責任があるのです。

近ごろ話題になったウイスキーの詐欺事件には、ロンドンの巧みな詐欺師が関わっていました。「Whisky.Auction」のディレクター、イザベル・グラハムヨールは、ある売り手を不審に思い、ウイスキーコレクターを装ってフィンチリーのとある住所を訪ねたのです。そこで何百本もの希少と思しきボトル見て、これほど大量のボトルがすべて本物だということはあり得ないのではないかと彼女は疑念を抱きました。密告を受けた警察が家宅捜索を行ったところ、瓶詰め装置が発見されました。そして今年2月に41歳の男が逮捕され、グラハムヨールの尽力によって、オークション市場から約20万ポンド相当の偽造酒が排除されました。

その1か月後、樽に関わる別の詐欺が地球の反対側から浮かび上がりました。タスマニアのナント

蒸留所は、詰めたばかりの2樽を25,000豪ドル(14,200ポンド)で買うよう勧めて、資金調達をしようとした。それを約4年間熟成させた後、ナントはウイスキーを36,000豪ドル(20,500ポンド)で買い取ると言うのです。9.55パーセントの複利に相当する利率です。それがどうして失敗に終わるのでしょうか。実は、蒸留所を設立した資産家のキース・バットが昨年12月に破産宣告をし、今年の3月に新たなオーナーとなった「オーストラリアン・ウイスキー・ヘリテージ」が明らかにしたところによると、700以上の樽は一度も樽詰めされないままだったというのです。

この話は、元トレーダーのスティーブ・ジュピが詐欺取引で2004年に有罪判決を受けたグラントウリー・シングルモルトの顛末にそっくりです。その10年前、彼はパースシャーにかつて存在した蒸留所の名を冠したホグスヘッド樽を「年間成長率18パーセント」の「黄金の水」と称して、930ポンドで提供していました。しかし実際の価値はたったの425ポンドで、中身のウイスキーもスパイサイドのある蒸留所で造られたものでした。

ジュピの貿易会社マーシャル・ワイナリーは、ミレニアムに向けたシャンパンの悪徳商法にも関与していたことがあり、このことからワインの世界で人のお金をだまし取ろうとしていた者たちが、次のターゲットとしてウイスキーの投資話に目を付けたことは明らかです。希少なボトルを偽造することに関しては、両者の間に大した違いはありません。その目的は、法の目を潜り抜けてオークションに持ち込むことです。オークションでは、ボトルが取引され、収集され、時には愛でられることはありますが、





写真：ピーター・サンドグラウンド

デイビッド・ロバートソンは言います。  
「肩唾かと思うような良い話は、肩唾です」。

コルクを抜いた途端に本来の価値は崩れるので、中身が飲まれることはほとんどありません。美術品の偽造とは異なり、偽造ボトルはその中身に秘密を封じ込めてしまっています。そしてたとえ中身を飲んだとしても、それが偽物だと認めるよりも、証拠を飲み込んでしまうことを選びがちなのです。

アナリスト、ブローカー、投資アドバイザーとして活動している「Rare Whisky 101」のデイビッド・ロバートソンは言います。「我々はこれらのボトルをレプリカ、リフィル（詰め替え）、レリック（歴史的遺物）に分類します。何かを複製したものがレプリカボトルだとすれば、元の持ち主が飲んだ後に別のものを入れ、再びコルク栓をして中身を詰め替えたものがリフィルボトルです。そしてレリックというのが、市場に出回ることを我々が特に懸念しているもので、一見非常に古く見えるボトルのことを指します」。

このレリックの例として、「Rare Whisky 101」が昨年のオークションで見つけた1903年物のラフロイグが挙げられます。「瓶も、ラベルもそれらしく見えたのですが、ボトルを買って分析してもらうこ

とにしました」とロバートソンは言います。「案の定、中身の液体は1903年ではなく、最近のものでした。予想していたとはいえ、ガッカリしました」。

ボトルをオックスフォード大学の放射性炭素加速器ユニットに送ると、「そのウイスキーは、75パーセントの確率で2007年から2009年の間に蒸留さ

「何かを複製したものがレプリカボトルだとすれば、元の持ち主が飲んだ後に別のものを入れ、再びコルク栓をして中身を詰め替えたものがリフィルボトルです。」

れたブレンドであることが分かったのです」。ロバートソンはさらに付け加えます。「我々が暴いた偽造など、ほんの氷山の一角にすぎません」と。

オークションハウス、サザビーズのワイン部門の代表は、マーケットは偽物であふれかえっていると言ったことがあるそうです。また、クリスティーズのオークションハウスが1985年に105,000ポンドという記録的な値で売却した、いわゆるトーマス・ジェファーソンのクラレット（ボルドーの赤ワイン）をめぐる疑惑は今も残っています。

こうして読んでみると、オークションそのものへの信頼性に、疑いの気持ちが芽生えたことだと思います。幸いにも、例えば「Whisky.Auction」では明確な反偽造ポリシーを掲げていて、ボトルの受領と販売の間、最低10日間は猶予を置いているといいます。ただ、一方でオークションハンマーを嬉々として叩く業者がいるのも事実かもしれません。ロバートソンは名指しはしないながらも、こう続けます。「シロ以上に白い公明正大なところもありますが、一方で過去に1〜2本は偽造品を販売してしまっているところもあるかもしれません」。

彼はスコッチウイスキーアソシエーションやブランドのオーナーたちに対して、この問題に真剣に取り組むように呼びかけてきました。「既に出回っているものに対しては、彼らもどうすることもできないでしょう。しかし今後は、市場に出てゆく希少なボトルに対して適度な抑制と均衡を施すことはできます」。

# 希

少ボトルの供給の激増に合わせてウイスキーオークションサイトが増えれば、偽物の数も確実に増えます。そして、蒸留所自体がだまされることもあります。マッカランは自社のシングルモルトのアンティークボトルを100本買い付けたのですが、デーブ・ブルームが「ウイスキーマガジン」でその真偽に疑問を投げかけました。数か月憶測が駆け巡った後、いくつかのボトルが開封され、結果として偽物であることが確認されたのです。マッカランにとって大きな屈辱であったと同時に、業界内に大きく警鐘を鳴らす出来事となりました。

「Rare Whisky 101」のウェブサイト上に掲げられた合い言葉は、「飲んで、集めて、投資して - 楽しもう」であり、参加したくなった人はこれらの言葉をじっくり考える必要があります。動機があやふや

「既に出回っているものに対しては、彼らもどうすることもできないでしょう。しかし今後は、市場に出てゆく希少なボトルに対して適度な抑制と均衡を施すことはできます」。

になることがあるからです。できたばかりの先進の蒸留所から樽を購入することは、それにお金を費やす余裕がある人の無邪気な楽しみであるべきです。保税倉庫の中でそのウイスキーがゆっくりと熟成していくのを待つ楽しみも生まれますし、蒸留所にとっては最初のボトルを販売できる日まで、長年の熟成期間に必要な資金を調達することができます。

時が満ちれば、関税局に消費税として実体ある大金を支払い、待ち望んでいたウイスキーを味わうことができます。蒸留所が企業として継続するという確信があるなら、ほとんどリスクはないでしょう。その歴史に加わり、クラブの一員になればよいでしょう。しかし、ボーダーズのアンナデール蒸留所は別の動機を挙げています。ウェブサイトには「ウイスキーの専門家でなくとも、賢い投資先として樽の購入はいかかでしょうか」と記載され、それは「樽ナンバー1番のオーナーになる一生に一度のチャンス」と続きます。スコットランドで蒸留された最も甘い蜜になる可能性はありますが、その「賢い投資先」に下げられた値札は100万ポンドです。

「WhiskyInvestDirect」のようなプラットフォームで、モルトウイスキーやグリーンウイスキーの樽へ投資する場合は適度な率のリターンがあり、ウイスキー業界からの後援もあるように見えますが、それは希少なウイスキーとは全く異なります。オークションサイトの普及と記録破りを伝える見出しが、やや世間知らずな新感覚の「投資家」をも引き込んできました。その余波の中で、詐欺師の群れの影が漂ってきたのです。儲けのことは忘れて、ただ飲むだけのほうがシンプルかもしれません。今やそれこそが真に先鋭的と言えるのではないのでしょうか。●

写真：マイク・ウィルキンソン



「Rare Whisky 101」では偽ボトルをレプリカ、リフィル（詰め替え）、レリック（歴史的遺物）に分けています。

